



志高く！

教育目標
 「志高く 遅しく 切り拓く」
 生徒会スローガン
 「麻生中ABCD+」
 「考・動・皆・志」

◆麻生中学校だより◆
 Tel 80-8070
 Fax 77-0840
<http://www.sopia.or.jp/n-asojh/>
 行方市南327の3
 令和2年12月25日発行
 令和2年度 第22号

◆PTA教育講演会「夢をかける」◆

12月10日(木)、「PTA教育講演会」を実施しました。麻生中学校では、開校以来、「ほんものとの出会い」を大切にしており、昨年度は、ロンドンオリンピック水泳平泳ぎの銅メダリスト、立石諒さんを招聘しました。今年度は、日本人で初めて、アメリカのNFLやNBAにおいて、チアリーダーを務められた柳下容子さんを講師にお迎えし、「夢をかける～いくつもの試練を乗り越えて～」という演題で講演をして頂きました。



新型コロナウイルス感染症対策のため、友輝祭同様、麻生体育館での開催とし、保護者の方の参観も各家庭一名とさせて頂きました。

柳下さんは、「どんな夢でも目標でもいいので、一つのことをとことんやり切ってほしい。」と笑顔で話してくれました。

◆1学年「行方市をきれいにし隊～スマイルアッププロジェクト～」◆

12月16日(水)、1学年が、「総合的な学習の時間」の活動の一環として、「行方市をきれいにし隊～スマイルアッププロジェクト～」と称して、学区内のゴミ拾いを実施しました。

生徒たちは16の班に分かれ、それぞれのルートでの活動を行いました。活動当日は、寒波が到来しており、最高気温が10度に届かない厳寒の中での作業となりましたが、どの生徒も一生懸命取り組んでくれ、下写真のように、多くのゴミを回収することができました。そして、地域の方からは、感謝のご連絡を頂戴しました。

本取組は、先日中止を決定した校外学習の代替行事としての意味もあったため、生徒にとっての思い出の一つになることを期待しています。



◆12月25日の生徒への話(※3年生向けバージョン)◆

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休校があったため、前期・後期の2学期制となりました。従いまして、本来であれば、今日が2学期の終業式であったはずなのですが、式を行わずに冬休みを迎えることとなります。しかし、令和2年が終了し、新しい年を迎えるというけじめの時期であることを考え、皆さんに少し話をします。

さて、皆さんは、短い夏休みが終わり、今日までの間、どのような学校生活を送ったのでしょうか？私にとっては、皆さんのすばらしさや可能性を数多く発見することのできた期間となりました。特に新型コロナウイルス感染症対策をしながら、体育祭や友輝祭、その他の取組、そして部活動においても創意工夫しながら、すばらしい結果を導き出したことは、これからも必ず役に立つ、「生きる力」の獲得に繋がったと思っています。先日行った、「行方市学力向上授業研究会」においても、生き生きと学習活動を展開する姿、そして、授業公開をしているクラスを応援するかのようになりしっかりと自習に取り組んでいた様子からも、皆さんのすばらしさを見取ることができました。「できない、やらない」のではなく、「何ができるか、どうすればできるか」を常に追究していくことは、人間のみが持ち合わせている普通のすばらしい能力だと思います。皆さんは、このコロナ禍というこれまで経験したことのない状況の中、そのような問題解決能力を高めることができたのだと思います。

そして、それは、皆さんが、常に、今年度の教育目標である、「志高く、遅しく、切り拓く」と、皆さんに目指してほしい姿である、「主体的に考え、判断し、勇気をもって、行動できる」という言葉を意識して生活してくれたからだ大変うれしく思っています。特にこの中の、「遅しく」と「勇気をもって」は、今後も大いに意識し、日ごろの生活において確実に実践して行ってほしいと思っています。

さて、今年も残すところ、あと6日となってしまいました。昨年度も伝えましたが、この年末という機会に、もう一度、自分自身を見つめ直し、新年につなげて行ってほしいと思っています。3年生にとっては、中学校最後の冬休みです。どうしても、高校入試に対する結果のみを考えたくありませんが、その裏側にある努力こそが重要なのだと思います。昨年度の教育講演会で、ロンドンオリンピック水泳銅メダリストの立石諒選手が、「努力しても夢が叶うとは限らない。しかし、成功した人は、100%絶対に努力している。」と言っていました。また、「冬を制する者は受検を制す」と昔から言われています。時間を有効に使い、根気強く頑張ってください。

間もなく新しい年を迎えます。期待と希望に胸を膨らませて、来たるべき新年をスタートしてほしいと思います。そして、令和3年1月7日に元気にお会いしましょう。以上で話を終わります。



コロナ禍との闘いを強いられた令和2年が終わろうとしています。来年はどのような状況になるのか見通しがもてませんが、その時々には子供たちにとっての最適解を求めて頑張っていくしかありません。これからも本校の教育活動に対しまして、ご支援とご協力をお願い致します。それでは、よいお年をお迎え下さい。 文責：栗原 秀雄

